

A large blue horizontal bar with a smaller blue square on its right end, serving as a background for the title text.

無線LAN製品使用時における電波干渉に関する 注意事項

2022年1月

Panasonic i-PRO Sensing Solutions Co., Ltd.

■ 本機の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止したうえ、[ご相談窓口](#) にご連絡いただき、混信回避のための処置など(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、[ご相談窓口](#) へお問い合わせください。

■ 本機は、2.4 GHz帯と5 GHz帯を使用します。

● 2.4 GHz帯について

全帯域を使用しかつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式は、DSSS方式およびOFDM方式で、想定干渉距離は40 mです。本製品には、それを示すマークが貼付されています。

● 5 GHz帯の使用チャンネルについて

5 GHzの周波数帯においては、5.2 GHz/5.3 GHz/5.6 GHz帯(W52/W53/W56)の3種類の帯域を使用することができます。

5.2 GHz/5.3 GHz帯無線LANの屋外利用は法律で禁止されています(5.2 GHz帯高出力データ通信システムのアクセスポイント/中継局と通信する場合を除く)。

① 2.4GHz 帯を使用する無線設備。

② 変調方式。

複数の変調方式の電波を発射できる場合は、「DS/OF」のようにスラッシュで区切って併記。

DS: DS-SS 方式、FH: FH-SS 方式
 OF: OFDM 方式、XX: その他の方式
 HY: DS-FH、FH-OFDM 複合方式

③ 与干渉距離。

表示記号は「1、2、4、8」の4種類としている。
 これ以外の記号を使用する場合は、想定与干渉距離の1/10を記号とする。

④ 周波数変更可否の表示

- | | |
|-----|-----------------------------|
| (1) | (1) 全帯域、移動体識別装置の帯域を回避可能 |
| (2) | (2) 全帯域、移動体識別装置の帯域を回避不可 |
| (3) | (3) 高域のみを使用 |
| (4) | (4) 中域のみを使用、移動体識別装置の帯域を回避不可 |
| (5) | (5) 中域のみを使用、その中で周波数変更可能 |

① ② ③

2.4 DS/OF 4

④

iii-PRO